

図書館だより



No.20

2022（令和4年）10月28日

石岡商業高校 図書委員会

日増しに秋冷が加わる今日この頃、秋風にあおられる落ち葉のように舞い飛ぶ秋の蝶。いつしか、校庭の金木犀も残り香を漂わせ散っていきました。『灯火親しむ』も季語や慣用句として使われる程度になってしまいましたが、今年も読書週間がやってきました。一冊の本の向こうに広がる世界に、わくわくしながら寝不足を楽しみましょう。今年の標語は下記の通りです。

第76回読書週間標語 「この一冊に、ありがとう」

期間 10月27日（木曜日）～11月9日（水曜日）



ギリシャ神話の世界で「ふくろう」は、学問・技芸・知恵を司る美貌の女神アテナの使者であり、また、文化の中心地アテナイ（アテネ）の聖鳥でもありました。古代のギリシャ人たちは、賢そうな丸い目ですまし顔の「ふくろう」を知恵の象徴として大切にしていたといいます。この「ふくろう」の姿こそ、読書週間のシンボルマークとしてもっともふさわしいものと考え、長い間使用してきました。



新着本案内 図書館入口より正面書架に新着図書コーナーがあります

書名	著者名
春のこわいもの	川上未映子
ミトンとふびん	吉本ばなな
古代中国の24時間	柿沼陽平
三千円の使いかた	原田ひ香
虚魚そらざかな	新名智
誰かがこの町で	佐野広美
世界が青くなったら	武田綾乃
ボタニカ	朝井まかて

燕は戻ってこない	桐野夏生
僕に方程式を教えてください	高橋一雄・瀬山士郎
LGBTQ+の児童・生徒・学生への支援	葛西 真記子
母子草の記憶	小杉健治
名探偵と海の悪魔	スチュアート・タートン
なぜ地球は人間が住める星になったのか	山賀進
刑事弁護人	薬丸岳
ひまわりは恋の形	宇山佳佑
夏の体温	瀬尾まいこ
八月の母	早見和真
神さまの貨物	ジャン=クロード・グランベール
ともだちがほしかったこいぬ	奈良 美智
はい、こんにちは	エリイ
ベイベーレボリューション	浅井 健一/奈良 美智
最強脳	アンデシュ・ハンセン
あしたの幸福	いとう みく
人間はだまされる—フェイクニュースを見分けるには	三浦 準司
スカートはかなきゃダメですか？—ジャージで学校	名取 寛人
ボーダレス・ケア—生きてても、生きてなくてもお世話します	山本 悦子
境い目なしの世界	角野 栄子
鳥はなぜ鳴く？ホーホケキョの科学	松田 道生
作家たちの17歳	千葉俊二
それでも生きていく	姜尚中
きみだからさびしい	大前栗生

デジタル馬鹿	ミシェル・デミュルジェ
複雑化の教育論	内田樹
鎌倉幕府はなぜ滅びたのか	永井晋
アディ・ラルーの誰も知らない人生 上・下	V・E・シュワブ
流転	笹本稜平
渚の蛍火	坂上泉
公孫龍 巻1・巻2	宮城谷昌光
高校生のための「探求」学習図鑑	田村 学
Excel最強の教科書 完全版 2nd Edition	藤井 直弥/大山 啓介
人は話し方が9割ー1分で人を動かし、100%好かれる話し方のコツ	永松 茂久
あの夏の正解	早見和真
誕生日パーティー	タシュラー, ユーディト・W.
吹奏楽の世界	佐伯茂樹
匠が語る日本の美と技	近藤誠一
茨城県北ジオブック	茨城新聞社
歴史を変えた指導者たち	DKs社 加藤洋子 訳
世界の名言名句 1001	ロバート・アープ
覚えておきたい総理の顔 100	本間康司
新型コロナウイルスに対する学校の感染対策	武藤義和
歩く・知る・対話する 琉球学	松島泰勝
人間狩り	グレゴワール・シャマユー
平家物語 評釈	市古貞次
徒然草 全釈	松尾聡
古今集・新古今集 評釈	吉岡曠・松尾聡

源氏物語 評釈	阿部秋生
枕草子評釈	増淵恒吉
万葉集 評釈	次田真幸
学校という場の可能性を追究する 11の物語	金澤ますみ・山中徹二 他
【新版】 歌舞伎事典	服部幸雄・富田鉄之助 他
明日話したくなる お金の歴史	阿部 泉
昭和・平成史 年表 1926－2019	平凡社 編

さ・え・ら 第75回新聞週間 〈10月15日～21日〉

新聞を読み無関心やめよう
15日スタートの新聞週間の今年の標語は「無関心 やめると決めた 今日の記事」。何かしら心に重く響くものがある。今の格差社会に「無関心であってはいけない」と日々新聞を丹念に読むことを実行している。特に下段の小さく扱われてものに目がいく。大きな事件や事柄、センセーショナルなことは扱いが大きく、その扱いには正しい理由が当然としてある。だが、そのビッグニュースの陰に隠れてとても大事な報道があると思っている。孤独、貧困、格差などが生む痛ましい事件。心無い差別を巡る言動からどれほど多くの人々が悲しくつらい思いをしているか。それら身近な記事から私はさまざまに想像して、現実を組み立てていく。決して無関心であってはならない。それを気づかせる今日の記事は、大きなニュースは当然としても、それと同等に、否ある意味でそれ以上に下段の小さな記事を注視していきたいと思っている。新聞週間、あらためて標語をかみ締めたい （毎日新聞 2022.10.15付 無職 山口 敬司 70歳）

1日1時間、知らない物事に触れることを日課にしている。本のほか、新聞も移動中の車内などで読んでいる。自分ができるべくフラットな状態でいられるようにさまざまな情報を、いろいろな角度から知りたい。それが役作りにもつながっていると思っている。新聞は、何を届けたいのかをよく考えて作られている媒体だと思う。情報を得る手段をネットだけに頼ることへの怖さもある。ネットには信じて良いのかどうか分からない情報がある。信用性は新聞の活字の方がはるかに高い。「新聞を読むことは、大人になること」という印象は子どもの頃から変わらない。自分たちの足で情報を集め、「これは正しい」と思ったことを報じている。自らの思いを含め、「伝える」ことへの誇りが伝わってくる。大人になるためにも、新聞を読むことは大事なことだと感じている。
（俳優 岡田 准一 新聞週間に寄せた朝日新聞のインタビュー記事より）

図書館には6種の新聞があります。

教養ある社会人となるためにも新聞をもっと読もう。

